

前回のコラムでは「智慧の燈火プロジェクト」との出会いと想い、そして目標とする天武天皇、30カ年ビジョン「チエノワを世界標準語へ」について書きました。本年よりスタートした本プロジェクトを通して300社とお会いし、60社のものがたり創造を進めてきましたが、今回は本プロジェクトで企画・運営する4つのメディアについてご紹介します。(4つのメディアとは①番組、②フォーラム、③雑誌、④ウェブ)

①番組「Story〜長寿企業の知恵〜」

弊社チエノワはテレビ番組、主にビジネス経済番組の制作・運営が主事業であり、本プロジェクトの発起となる長寿企業との出会いも番組を通してでした。

従来のテレビ番組は、番組スポンサーにとってより良い価値(視聴率)を提供することが最大の目的であり、そのために、いかに視聴者を惹きつけるか、という点に重きを置いたコンテンツでした。

しかし、『それがメディアとして本来の役割なのか、何のため、誰のためのコンテンツなのかをより明確にし、そこからブレずに取り組み続けることが大切である』と私は感じました。私たちが運営する「Story」長寿企業の知恵〜ではスポンサーや視聴者のためではなく、まず第に「長寿企業にとつてより良い価値を提供すること」を目的に制作しています。

そして、これまで明かされることのなかった、長寿企業の歴史(創業者や先代の想い、決断や苦悩等)を通していかに今を生き、未来を見据えているのかという「唯一無二のもの」がたりを遺すことに、全力を注いでいます。だからこそ、ものがたりを創るためには私たちだけではなく、長寿企業の皆様自身にも精一杯協力頂きます。「ここまで準備するの？」とこれまで参加された経営者の皆様からお声を頂きますが(笑)、この準備こそが必要不可欠であり、他のどの企業とも一緒ではないものがたりに秘められた想いを見つめ直し、社内外に改めて発信していくことで、長寿企業の皆様にとって新たな一歩を踏み出して頂けるキッカケになるのではないかと考えております。

現在は東京の長寿企業を中心に出演頂く形で運営していますが、今後は地方での展開もスタートさせて参ります。

②フォーラム「地方創生経営者フォーラム〜伝燈と志命〜」

番組を通して、それぞれの長寿企業が持つ「唯一無二のもの」がたりには、信用や知恵があり、それを伝えていく使命を感じていますが、番組を全国的に展開するには従来のメディアのように大型スポンサーをつけ、そのスポンサーのために取り組まねばなりません。またスポンサー意向により、本来の目的が損なわれる可能性も多分にあります。

そこで、地域にある長寿企業のものがたりを発掘し、その中に秘める知恵を遺し、伝えていく上で、番組のように1社ずつフォーカスするのではなく、地域の長寿企業同士のハネルディスカッションを通し、参加される次の時代・世代を築く経営者の皆様に届けることにしました。私自身も石川県金沢市出身であり、田舎者だからこそ理解できることですが、地域で東京から持ち込まれたイベントが開催されても、よそ者という認識を拭い去ることができません。

よそ者から身内(仲間内)へと変わるためには、地域の方々に参画して頂き、主体として継続的に開催していく中で、自分事となり、根付いていくことが必要不可欠です。実際に本年7月には第1回として広島で開催致しましたが、広島銀行の皆様のお力添え無くしての実現は難しかったと実感しています。

これまで、明らかにされることのなかった長寿企業の知恵を、地域の皆様と共に発掘し、その知恵が地域の価値向上へと繋がる「土台」を築き、地域活性化・地方創生に貢献していく。このフォーラムの使命に共感頂き、更に「一歩踏み出し(長寿企業のご紹介や後援企業のご縁を頂く等)、フォーラム推進における同志、仲間を得られたことが何より心強かったです。だからこそ、広島銀行をはじめ、広島県、広島県商工会議所連合会、広島市商工会議

所、広島テレビ放送、中国新聞社、広島工フエム放送(順不同、敬称略)と多くの後援を頂き、開催することができました。改めてこの場をお借りし、ご協力賜りました広島銀行・三吉専務、谷口室長、橋本様をはじめ本フォーラムを支援頂いた皆様に心から感謝申し上げます。

「伝燈と志命」というネーミングには、伝燈：過去から現在、志命：現在から未来、と2つに懸ける想いを遺していく、というコンセプトが込められています。知恵は万代の宝であり、長寿企業の知恵は地域、日本、そして世界の財産であるからこそ、地域に根ざした企画として、2022年には日本全国44道府県で、毎年開催、つまりほぼ毎週、どこかの地域で開催できるよう、地域の皆様、地銀、自治体、商工会議所、新聞社、テレビ局等の「ネクタール」企業である皆様と共に、全国各地での継続開催を築いて参ります。※「ネクタール」企業とは、地域の中で取引が集中しており(取引関係の中心となっている)ハブの機能、地域外とも取引を行っている(他地域と取引をつなげている)「ネクタールの機能」企業をいう。

ちなみに、東京、大阪、愛知の三大都市におきましては、「上記44道府県の開催という目標が達成できるまでは実施しない!」という方針を打ち出しています。私たちのような、まだまだ土台が築けて

「智慧の燈火」

ちえ

ともしび

の礎



第1回フォーラム(広島)関係者打上げ。肩を組み、同志の皆様とのワンショット



第1回フォーラム(広島)開催挨拶をさせて頂きました

いない弱小企業は、やりたいこと全てを
施できるだけのリソース（ヒト・モノ・カネ・
情報・ネットワーク）が足りていないからこ
そ取捨選択せねばならず、東京には東京五輪、
大阪には大阪万博、愛知にはリニア中央新
幹線と未来に向けての取組みが多いからこ
そ、私たちは地域にフォーカスし、地域の知
恵を発掘し、三大都市をはじめ、日本全国
へと届け、活かしていく仕組みを構築すべく、
全力を尽くしていきます。その活動が少し
でも地域の活性化、つまり、地方創生の「助
へ」と繋がっていくことが本望です。

③雑誌「燈照隅」

雑誌の創刊にあたっては、三つの理由があ
りました。

一つ目は長寿企業の皆様において、番組や
フォーラムを通して、ものがたりを遺すこと
には指定日へのスケジュール調整が難しく、こ
遠慮される方が多いこと。二つ目は紙媒
体のように話した内容を事後チェックし、写
真においても取捨選択できるものであれば
取材了承頂く方が多いこと。三つ目は、
番組やフォーラムのように映像をみる時間・
デバイス（インターネットやスマートフォン）
を得られない方が多いこと。

だからこそ、手元でアナログで見れるもの
が知恵を伝える上では大事であることに気
づき、『燈照隅』が取り上げられない企
画を』という想いでスタートしました。そ

の中で、他のどのビジネス誌にも掲載され
ていない、親子対談（会長&社長）を始め、
八王子市の市政100周年やお祭りのように、
ここでしか見られない、ものがたりを遺す
ことにチャレンジしています。

これからも新たな企画や連載が生まれま
すが、世の中の万人に響くものではなく、自
社や自分自身と重ね合わせ、気づきや感動
が生まれるコンテンツ、つまり100人中99
人には価値が無くとも、たった1人には価値
を感じ、熱狂的なファンになって頂くことも、
ひとつの側面として大切だと考えています。

この2つの想いを込めたのが、『燈照隅』
というネーミングです。天台宗の開祖とし
て知られる僧・最澄は『燈照隅万燈照園
（いっとうしょうくうばんとうしょうこく）』
という言葉で、昭和歴代首相の指南役を務
めた安岡正篤は『燈照隅萬燈遍照（いっとう
うしょうくうばんとうへんしょう）』と遺し
ました。

最澄は、一隅を照らす人が増えていき、万
のあたりとなれば、国全体を照らすことが
出来る。正篤はあれこれ論じるよりも、ま
ず自分がいる場所を明るく照らせる人間に、
という意味を込めたと言われています。

この雑誌が「隅を照らす」ことができるよう
に、手に取っていただいた方の燈火となるよ
うに。そして、遺されていく長寿企業の知
恵が100年先、1000年先に必要とさ
れるものとなるよう、想いを込めて発行し

続けていきます。

④ウェブ「燈火サイト」

よく皆様に本プロジェクト①番組、②フォー
ラム、③雑誌での活動を集約する目的で「燈
火サイト」を構築している、と認識頂きま
すが、これは異なります。

『私たちの活動を遺したい』という思いも
勿論ありますが、本メディアである「燈火サ
イト」ではプロジェクト全体を通してご縁を
頂いた長寿企業それぞれのものがたりペー
ジ、つまり、歴史から今、そして未来にむ
けた沿革（ものがたり）を遺し続けるサイ
トとして、1社1社のために構築しています。
番組や雑誌で取材した内容をまとめるだ
けではなく、そのときに遺した写真もキャ
ラリーとして今後は各社のものがたりペー
ジに更新していきます。

従来メディアであるテレビ番組や雑誌、
ウェブでは、一度取材し、公開されたコンテ
ントを随時更新していくことは皆無でした
が、私たちは一度ご縁頂いた長寿企業のも
のがたりページは『生涯かけて、ご一緒に更
新していく（ものがたりを遺し続けてい
く）！』という想いで運営の仕組みを構築
しています。

あくまで本プロジェクトの①番組、②
フォーラム、③雑誌での参画がご縁のキッカ
ケであり、ご縁を深め、継続的に遺してい
くのが④ウェブであります。2年後には各、

ものがたりページを更新できる、アンバサ
ダーを全国に創出していく計画であります
が、こちらの詳細は善きタイミングでお伝
えて参ります。

以上が現在運営する4つのメディアですが、
まだまだ立ち上げ間もなく、ご縁を頂いた
皆様にもご迷惑をおかけすることも、失敗
することも必ず出てきますが、そんなとき
こそ『日本が誇る世界遺産（長寿企業の知恵、
千社万様のものがたり）を発掘し、次の世代、
時代へと遺していく』というミッションに立
ち返り、ブレずに真・直ぐに貫きます。

また、これまで誰も手掛けたことがない、
まさに道なき道だからこそ日々不安もつき
まといいますが、どんな困難も共に歩むメン
バーや志に共感し支援頂くサポーター、そ
してプロジェクトへ参画頂く長寿企業、更に
様々な形で支えて頂く皆様とご一緒に、一歩
ずつ積上げていけることが、私にとって本當
に幸せなことです。

信用・信頼できる同志と共に一歩ずつ土台
を固めているからこそ、時に成長速度が遅
く見えることもあるかもしれないです。し
かし、今は目に見える花（成果や実績）で
はなく、花を咲かせるための根（人財）を
強く・太くし、土（信用・信頼）を育てる覚悟で、
磐石の礎を築いて参ります。



浅草観光連盟・富士会長への取材。11年後の浅草寺1400周年への想いを頂きました



オフィシャルサポーター東京海上日動火災保険の皆様へ収録現場へお越し頂きました



番組収録後に文字アーティスト平井省伍氏の“書”をお渡ししました



田中 雅也

株式会社チエノワ 代表取締役

1986年石川県金沢市生まれ。

2008年筑波大学卒業後にPR会社へ就職。

「メディアウェーブ=発掘力(ネタ)×アイデア
力(工夫)×継続力(仕組み)」理論を用いた
メディア露出・話題づくりに従事し、年間180
社以上の広報・PRを手掛ける。

2013年に独立し、チエノワを設立。テレビ各
局でビジネス番組、経済番組等を企画。
PR・ブランディング手法としてピラミッド戦略を
提唱し、年間200社超の企業を手掛ける。

2015年、長寿企業との出会いをきっかけに、
現在の「智慧の燈火」プロジェクトを発足する。